



木木

千葉県TEACCHプログラム研究会
2022年10月8日(土) 第117号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL 043-227-8557

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>



第3回 連続セミナー 「構造化を用いた学習支援」 ～TTAPを活用して～

東京都立王子特別支援学校
指導教諭 西田 恵理子 氏

＜児童・生徒に必要な構造化とは？＞

『オーダーメイドで、ジャストフィットな構造化を外に持ち出そう！』
というお言葉から始まり、事例を紹介していただきました。

◆構造化を用いた学習支援「進路指導」

- ①家庭との連携により、得意・不得意を把握する。
- ②フィードバックし、授業改善のサイクルが根付くようにする。
- ③移行支援のツールを充実させ、地域や進路先につなげる。

【TTAPの活用】TTAPは卒後の生活に移行する際、継続的な支援を行うためのアセスメントであり、地域で生活する上での必要なスキルが明記されているので、課題設定がしやすい。

【学校の取り組み】TTAPの項目などから、進路指導の新たな視点を得た。学区である王子の地域チェックリストの作成をした。(王子版CSC、CBC)

◆事例より…＜得意を生かした支援で自主性を育て、進路先へつなげる＞

- *学習スタイルから「課題」(苦手)と「強み」(得意)を把握する。
- *自ら行動する力を引き出し、働く意欲を育てる。
- *得意なことを見極め、進路先へつなげる。

◎やる気がないのではなく、理解できれば自ら行動でき、働くことが好きである。

◎自閉症の特性…実行機能の困難さ。中枢性統合の困難さ。ワーキングメモリーの困難さ。
⇒「構造化のアイディアを見出す」

◎物理的構造化…少しでも混乱がなくなれば、意欲をもって作業に取り組める。

⇒★作業をするエリア(ここに行ったらこれをやる)を決めた。

◎時間の構造化…★予定を本人に合った方法で具体的に提示(スケジュールの工夫)した。

◎活動の構造化…★「何を」「どれだけやるのか(量)」「いつ終わるのか(終わりの概念)」
「次は何があるのか」等を見える形(ワークシステム、ワークアクティビティシステム)で伝えた。

◎視覚的な支援…★ジク(視覚的作業指示書)を工夫した。

【現場実習に向けて】スキルがあっても、行動面でつまずきがある。

⇒ 支援グッズを持ち込む。(マスキングテープ、付箋)

(例) 事業所：ミシンのペダル(フットコントローラー)は両足で踏んで欲しい。

本人：ミシンのペダルは片足で踏むものです。(納得できない…)

⇒ ペダルにマスキングテープで「あし」の目印(足を置く場所)を二つ貼る。

理解して、両足で踏むことができた。

まとめ ●家庭から一步出たとき、学校から一步出たとき、何ができて、何が難しいのか？
地域生活に必要なスキルは何か？ 地域で、どのように幸せに生きていくのか？

⇒ TTAPからアイディアを得て移行する(つなげる)構造化を持ち出そう！

客観的な指標「TTAP」を基に

- 本人が必要としていることは何か、自主性を伸ばすツールを見出す。
- 「得意」を生かしたジョブマッチングを探す。
- 効果的な支援の工夫をまとめ、個々の特性理解を地域につなげる。

◆最後に、本人の状態は、変化するので、常に、見直しや工夫が必要である。
再構造化のくり返しがとても大事だということを教えていただきました。

【セミナー時のQ & A】

Q：作業手順は視覚的な支援で伝えられても、力の加減が適切に伝えられず、困っている。

A：力加減の許容範囲を決めておく。ジグにより、これ以上は押せないようにする等の手立てをする。また、身体支援（誘導）が必要な子もいる。

★イラストで手順を教えたり、写真入りで流れやすさを伝えたりしても、うまくいかないこともある。分かってもやりたくないこともあるし、嫌なものは嫌である。それでも、子供の力を伸ばすための理解を広げる必要がある。

令和4年度千葉県TEACCHプログラム研究会第4回連続セミナーについて

日時：令和4年10月8日（土） 14：00～16：00 （13：30受付）

内容：「成人期の支援：入所施設における構造化の取組

講師：中野 伊知郎 氏（社会福祉法人侑愛会 星が丘寮 園長）

会場：ZOOM（リアル配信）

※オンデマンド動画配信 配信期間：10月14日（金）～10月30日（日）

申込締切日：令和4年10月6日（木）

【中野先生のご経歴】

北海道小樽市で生まれ、道都大学社会福祉学科をご卒業、社会福祉主事の資格をお持ちである。平成5年、社会福祉法人侑愛会「星が丘寮」に入職し、現在に至る。現職は、『星が丘寮』ねお・はろう」施設長である。全国自閉症支援者協会の常任理事も務められている。

【星が丘寮の紹介】



「星が丘寮」は、北海道北斗市の当別地区の小高い丘の「ゆうあいの郷」にあります。この

丘は、トランプスト修道院が建つ丸山を背に、眼下には津軽海峡が、そして晴れた日には対岸の青森県下北半島を望むことができます。（中略）美しい四季を感じられる丘に、「星が丘寮」はあります。

「星が丘寮」は、知的障がいの伴った自閉症の方々が多く利用している入所型事業所です。ここでは、24時間365日のアセスメントを中心とした個別支援を展開し、暮らしの全般をトータルで支えるシステムを持ち合わせています。利用者の特性やコミュニケーションレベル等を把握した上で、一人ひとりの学習スタイルに応じて、分かりやすく情報提示するなど、コミュニケーションスキルの獲得に向けた支援を展開しています。（HPより抜粋）

令和4年度千葉県TEACCHプログラム研究会第5回連続セミナーについて

日時：令和4年12月4日（日） 14：00～16：30（13：30受付）

内容：「TEACCHから学ぶ就労定着支援」（仮題）

講師：梅永 雄二 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院）

会場：千葉県教育会館303会議室

※オンデマンド動画配信 配信期間：12月9日（金）～12月25日（日）

申込締切日：令和4年12月2日（金）

【編集後記】「そんなの外に行ったら使えない。」こんな言葉を私も耳にしたことがあります。家庭内、学校内から地域に広げていく必要がある。必要な支援を広げよう！というお話に胸がアツくなりました。そして、これで終わり。これでOK！はない、ということ。子供たちの状態は、常に変化するから、合わせて見直し、再構造化が必要なのだということを改めて考えさせられました。（島尾）